平成11年6月8日第三種郵便物認可（年4回2・5・8・11月の10日発行）第209号 令和7年5月10日発行

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2025.5 VOL.209

特集①
全曹青創立50周年記念事業を振り返って：結集から未来へ

特集②
「子どもたちと作る地域とお寺の未来」～お寺でボーイスカウト～

静岡県瑞光寺　柴田尚道老師
東京都瑠璃光寺　久保達夫老師

全曹青創立50周年記念事業を振り返って

結集から未来へ

田ノ口太悟
会長

宮本昌孝
副会長

森井宗淳
50周年記念事業
実行委員長

全曹青が創立50周年を迎え、記念事業を通じて半世紀の歴史を振り返りながら、未来への展望を見据えた活動を行ってきました。本インタビューでは、田ノ口太悟会長、宮本昌孝副会長、森井宗淳実行委員長に、50周年記念事業の意義や成果、今後の展望についてお話を伺いました。

大本山總持寺報恩拝登

大本山永平寺報恩拝登

両大本山報恩拝登

田ノ口会長

大本山總持寺様での世界平和大祈祷諷経では紫雲臺猊下に御親修を賜り、大本山永平寺様では僧堂内で坐禅するご縁をいただきました。この事業では全国から多くの会員さんに参集いただきましたので、印象的な行事になりました。

また両大本山様で特別な法要の導師を務めさせていただけるとは思っておりませんでした。「一期一会」の気持ちで大切に務めました。これほどの経験をさせていただけたのは、全曹青が培ってきた曹洞宗内での信用があるからで、皆様の代理として務めさせていただきました。全曹青の諸先輩方と皆様に本当にありがたい気持ちです。

森井実行委員長

お釈迦様や両大本山様があっての私たちですので、創立50周年を機に参集し拝登するべきだと考えました。青年会や一人の僧侶として初心に戻れる大切な機会として、さらに世界平和のご供養とご祈祷をさせていただきました。国や宗派を超えてご参加いただいたこと、諸先輩方と青年僧侶、修行僧とともに諷経ができたことは良かったです。また対談講演や修行僧しか入れない僧堂で坐らせていただいたことは意義深いと感じております。

宮本副会長

両大本山様のご寛容さと、ご法愛に感謝を申し上げます。大本山總持寺様では猊下ご自身から御親香というお言葉をいただき、さらに青年僧侶に向けた御垂示も頂戴いたしました。大本山永平寺様では僧堂内で坐禅を修行し、法要では両班にも入らせていただきました。『全曹青公式 YouTube チャンネル』での公開でも格別なご慈悲をいただいております。

禅のつどい　自然に親しむ ZEN ASOBI

禅のつどい

田ノ口会長

禅のつどいは全曹青発会の機縁になっていますので、とても大事な事業になります。全曹青40周年記念事業から継続している味来食堂のような一般の方に教化できる新しい事業を作れればと考えておりました。

森井実行委員長

禅のつどいでは来ていただくハードルを下げるため、寺院を飛び出し全国で開催するということを考えました。

「自然に親しむ ZEN ASOBI」では、自然を使った遊びを通して禅を学ぶことを目的としました。今回開催して終わりではなく、各青年会や一緒に関わった方々が改善し開催していただければと思います。

禅喫茶「ＲＹＵＲＥＩ」では、坐禅と茶道に親しみを持っていただくために企画いたしました。気軽に参加していただくためにカフェを会場に選定し、心のデトックスにも重きをおいたので、仕事後に参加できるよう夜の時間に開催いたしました。坐禅を経験したことがない若い方が多く、質疑応答の時間も盛り上がり、新しい世代の方に知っていただくきっかけになりました。

オンライン坐禅会「穏坐」では、全国各地の方に坐禅や禅の教えを知っていただくことができたと思います。

災害復興支援活動 全国研修会

田ノ口会長

全曹青の大きな活動の柱として災害復興支援活動があります。私は福岡出身なのですが、九州でも近年何度も水害があり、県曹青として何度もボランティア活動に足を運びました。そういった活動に参加していると、何ができるかを理解できてないと、ためらう部分があるのではないかと感じたので企画しました。

全管区での開催は大変でしたが、全曹青の活動を各管区の皆様に知っていただく機会にもなり、記念事業の柱になったと考えております。災害復興支援活動は、全曹青活動や各加盟曹青会活動の礎になっていただければと考えております。

森井実行委員長

当初は全管区で開催する必要性や、能登半島地震が発災し延期することも考えましたが、講師の先生から今だからこそやるべきだとお言葉をいただきました。全管区で開催したことで繋がりができ、今後の災害ボランティアでの連携が取れるきっかけになったのではないかと思います。一人では難しくとも、全国の人が集まり連携しあえば継続した災害復興支援活動が可能になり、大事なことだと思います。各青年会の皆さんと一緒に研修をできたことが良かったですし、想定よりも多くの参加者があったのは、各会で取りまとめやお話をしていただいたおかげです。

禅のつどい　禅喫茶「RYUREI」

災害復興支援活動　全国研修会

さらにこの事業では研修だけではなく交流も大切にしました。同管区でも他県の方と話す機会は多くないので、繋がりを築いていただけるよう工夫しました。

宮本副会長

災害メーリングリストではお伝えしきれない、能登のリアルタイムな情報をお伝えすることができ、貴重な機会となりました。全曹青では宗務庁様と協力してストックヤードを配備していますが、改めて周知できたことは本当にありがたかったです。

この研修会には加盟曹青会だけでなく、未加盟の曹青会や寺族さん、諸先輩方など、普段の研修では集まらないような方もご参集いただけたのが、一つの特徴ではないかと考えます。

森井実行委員長

何もできないと思われる寺族さんもいらっしゃるかもしれませんが、実際に行ってみるとできることはあります。また、発災時に寺院は避難所になる可能性があり、寺院に住む方はそういった状況に直面します。寺族さんにも気持ちを共有する意味で、多くの方に来ていただいたことはありがたかったです。

宮本副会長が言われたように、未加盟の曹青会にもお話をさせていただきました。発災時には加盟未加盟関係なく皆で動く必要がありますし、そのために垣根を越えた交流が必要です。今後一緒に活動していく一歩になりました。

記念誌『LOG』

田ノ口会長

全曹青50周年の歴史を全てまとめるということで、表紙裏表紙含め76ページになりました。全曹青の成り立ちや歴史、熱い想いを学べる素晴らしい記念誌となり、関わっていただいた皆様には感謝してもしきれないです。私も取材や編集に関わらせていただき、諸先輩方の想いを勉強させていただきました。50年近く経過した今でも熱い想いを持っておられ、当時の全曹青が理屈ではなく全国の青年僧侶が集まる場を作ろうという想いによってできたということを学ばせていただきました。

森井実行委員長

会長が言われたように、当時発会するだけでもかなり大変だったことがわかりました。様々な考えがある中で全国から集まり活動しようということで発会し、変わっていく人と流れの中、その時代に即した活動をしてこられて今がある、というのを事業内容も含めて知らずに活動するのは勿体ないと思いました。これまでの活動にヒントを得て、これからの活動に活かしていくことも大事ではないかと感じました。ご寄稿いただいた方、お受けいただいた方、取材に行っていただいた方のおかげで、色々な方々に伝わるものとして完成したのではないかなと思います。

宮本副会長

阪神・淡路大震災の支援活動について執筆をしましたが、当時悩まれていたことを令和6年能登半島地震の支援活動でも感じました。当時のことを知っていればもう少し良い動きができたのではないかと感じております。森井さんが言われたように、全曹青は多くの事業を積み重ねておりますので、これからの青年会活動のヒントや仏道を歩む際の道しるべになるものではないかと思います。

また、記念誌だけではなく、公式HP『般若』の広報誌バックナンバーには当時の記事がありますのであわせて振り返っていただきたいです。

記念式典

田ノ口会長

シンポジウムを通して、期によって置かれている環境が違い悩むことはそれぞれ違いますが、時代の流れがあると感じました。それぞれの期に託されたものがあり、与えられた課題を全部ではなくても次の期のために少しずつ解決し活動していくことで、未来につながっていくのではないかを学ばせていただきました。

記念講演では、戦場カメラマンの渡部陽一氏に「レンズからの宗教～戦場の死生観～」というテーマで講演をいただきました。世界中が戦火にさらされている状況ですので、皆さん意識の中に残るような講演になりました。

森井実行委員長

不老閣猊下、紫雲臺猊下、宗務総長老師にお言葉を頂戴し、歴代の諸先輩方にご出席賜れましたことはありがたいことでした。シンポジウムでは、歴代会長様方に生きたお言葉をいただき、今後どうしていけばいいのかのヒントになりました。それは全曹青出向者に限らず、多く

記念式典　記念シンポジウム

の方が地元で活動する際にも繋がってくると思います。

私が生まれてから日本では戦争はありませんが、創立期に近い諸先輩方は戦争の経験や、言葉に出さなくても心に秘めた想いはあったと思います。戦争を経験してない私たちが想いを向けるためには、各地で戦争が今ある中で、それを直に見られて経験をされておられる渡部さんにお話をいただいたことは刺激になりました。

宮本副会長

式典、シンポジウムにご出席くださった方々の顔触れが全てだと考えております。大禅師猊下、宗務総長老師をはじめとした宗門の錚々たる御老師方、そして全国から多くの会員の皆様にお越しいただきました。また曹洞宗以外の僧侶、宗門関係団体や全曹青が携わってきた業者の方々など、本当にあれだけの方が一堂に集うのは、まさに全曹青が歩んできた50年の歴史を象徴する式典であったと思っております。

周年事業を振り返って

田ノ口会長

諸先輩方の思いを学び、現会員の思いを同期させるという活動になれたのではないかなと考えております。そのようにして「一味同心」の気持ちになり、そういった思いがまた将来につながっていくような周年事業になったと考えております。この50周年が将来において、過去の50年と未来の50年と結びつける結節点としての役割を果たせることを願っております。

森井実行委員長

50周年だからこその事業内容を企画し開催していこうと考えてきたので、そういった面では達成できた部分はあります。災害研修会、自然に親しむ ZEN ASOBI、記念式典、両大本山拝登では多くの方にご参加いただきました。全曹青を支えていただいている皆様方、関係団体の皆様方、全曹青に出向してきてくれた皆様方との交流。私は周年事業を通して全曹青を盛り上げたいという思いでやらせていただいたので、交流にもかなり意識をした記念事業となりました。結果として全部は無理だったかもしれませんが、かなり達成することができたと思っております。

宮本副会長

ご来賓、ご協力を賜りました御老師方、多くの事業に参加してくださった各曹青会の方々、協賛のご協力をいただいた方々、そして出向者の皆さまに本当に感謝です。各曹青会や各委員会では、コロナ禍を経て現地事業を再開している大変さもあったと思います。その大変さが重なる中で無事に円成したことは、皆さまが一生懸命取り組んでいただいた証であり、ただただ感謝しかありません。

取材／広報委員長　宮本貴心
広報副委員長　信行一宏
委員　竹田龍永

創立50周年記念事業 開催報告

禅喫茶「RYUREI」大阪開催

令和7年2月26日（水）、大阪府大阪市中央区のHOOP Coffeeで禅喫茶「RYUREI」を開催し、男女合わせて9人の方にご参加いただきました。

まず約20分間、心静かに集中して坐禅に取り組みました。坐禅後は、法話を交えながらケーキと抹茶を召し上がっていただきました。法話では、「二見にわたる」という良し悪しを自分の視点で判断しないという話を修行時代の出来事を含めながらお伝えしました。参加者の皆様からの質問や素朴な疑問を通して原点に立ち返ることができ、有意義な時間となりました。

禅の教えにある「而今」。茶道の教えにある「一期一会」。どちらも今、この瞬間を大切にするという意味があります。不安や悩みが多い現代社会において、僧侶自らが出向いて人々の生の声に応えることで、私たちも考えるきっかけとなり、知見を深めていくことができます。禅喫茶「RYUREI」を通して、普段の檀務だけではなく、「今」この瞬間も教えを必要としている方にどれだけ耳を傾け、その気持ちに応えていけるかの重要さを改めて感じた事業となりました。

文／広報委員　南澤亨全

災害復興支援活動全国研修会　近畿管区

令和7年2月28日（金）、京都府宇治市の興聖寺様で開催し、約60人の青年僧侶、寺族の方々にご参加いただきました。講師には被災地で長年支援活動をされている炊き出しボランティア団体の方とNPO法人災害救援レスキューアシストの中島武志氏を講師としてお招きしました。

午前の炊き出し実演では、水で作ることができるアルファ米などを調理し、実際に被災地で経験されたお話をもとに炊き出しならではの苦労や注意点などをご教授いただきました。また実際の災害での状況を想定し、椅子や机を用いず屋外で実食しました。

午後からは中島氏より「災害復興支援心得講義」と題したご講義をいただきました。近畿地方では近い将来南海トラフ地震で大きな被害が想定されているため、今回学ばせていただいた知識やノウハウを活かし、被災者の方の心に寄り添えるよう心掛けたいと思える研修会となりました。

文／広報委員　補陀孝亮

子どもたちと作る地域とお寺の未来

～お寺でボーイスカウト～

かつてはお寺の境内が子どもたちの遊び場になっていることが多かったと言われます。しかし現在では外で遊ぶということも減り、習い事も多様化して、子どもたちがお寺に足を運ぶ機会は減少傾向にあるのではないでしょうか。

小学生から大学生・社会人までの幅広い年代の青少年が参加するボーイスカウトは、イギリス発祥の世界的な教育運動です。野外活動から、社会奉仕や国際交流まで、幅広い活動を通じた「より良き社会人の育成」を目指しています。

各地のボーイスカウト団は地域の有志の方々によって運営されており、寺院を活動の場としていることもあります。またボーイスカウトでは信仰心を養うことも教育上の重要な要素となっていて、曹洞宗を含む各宗教各宗派と協力関係にあります。

今回は、地域の方々と協力しながら、寺院として僧侶として子どもたちのためにできることを考えるという視点から、ボーイスカウトの活動について特集します。

文／広報委員　竹田龍永

活動の最初にご本尊様に一礼

柴田尚道　老師
静岡県静岡市瑞光寺住職
ボーイスカウト静岡第22団委員長、曹洞宗スカウト協議会監事等を務め、ボーイスカウト運動を通じた子どもたちの育成に携わるとともに、民生児童委員や社会福祉協議会を始めとした様々な地域の取り組みにも参画している。

日本各地のボーイスカウト団の中には、寺院を活動の拠点にしているところも少なくありません。静岡県静岡市瑞光寺御住職で、ボーイスカウト静岡第22団委員長もされている柴田尚道老師にお寺でのボーイスカウト活動についてお話を伺いました。

―瑞光寺とボーイスカウトの関わりについて教えてください。

１９４７年に先々代が地域の方々と協力してボーイスカウト静岡第22団を立ち上げました。戦後間もなくの混乱の中で、野外活動や共同生活を通じて子どもたちに心身ともに健やかに成長してもらいたいという思いがあったと聞いています。以来、静岡第22団は瑞光寺を拠点にしながら活動を続けてきました。現在も小学生から大学生までのスカウトや成人の指導者を合わせておよそ70人が所属しています。

―「活動の拠点」ということですが、境内、伽藍をボーイスカウトでどのように活用されているのですか。

集会で歌ったり体を動かすゲームをしたり、キャンプ用品の使い方の訓練をしたり、そのときの活動内容や天気に合わせて境内でも屋内でも使えるところは自由に使ってもらっています。それから「隊ルーム」と

いって、ボーイスカウト専用の部屋も設けていますし、野外活動で使う用具を収める倉庫もあります。キャンプ用具などは、万が一の災害時には檀信徒や地域の方々のために役立てることになっています。地域との関わりというところでいうと、8月にスカウトたちも出店を担当して夏祭りを開催し、年末には餅つきやしめ縄づくりをして、地域の子どもたちを招待しています。

ボーイスカウトの活動は週末に行うことが多いです。法事やお墓参りで来られる方も沢山いらっしゃいますが、昔から続けていることでもあり、子どもたちの活動にもご理解をいただいています。ボーイスカウトとしても、お寺で葬儀があれば場所を変えたり予定をずらしたりするなど、柔軟に対応してもらっています。

瑞光寺では他に茶道の青年部の方々に子どもが参加できるお茶会を開いてもらったり、学習塾に場所を提供したりもしていて、皆さんがお寺に対する垣根というのをあまり感じない雰囲気作りをしています。

―子どもたちが集まる場所として檀信徒や地域の皆さんにも受け入れられているのですね。お寺ならではの活動というのもあるのでしょうか。

毎年スカウトたちは坐禅や写経・写仏をしています。坐禅は小学生の頃から中高生までずっと続けてもらうと、作法にも少しずつ慣れてくる様子が分かります。また写経・写仏の際には、納経の法要を行って焼香や礼拝の作法を教えています。ボーイスカウトの考え方にも通ずるところですが、何でも実際にやってみてもらうことが大切だと思っています。

毎回お寺で活動をするときは最初にご本尊様に手を合わせてもらうようにしています。年末にはお寺の大掃除をして感謝の心を形にすることの大切さを学んでいます。

それから、中高生くらいの年代を対象に団の内外から希望者を募って、宗教章の講習も行っています。みんな自分の寝袋を持ってきてもらいお寺に泊まります。近隣の青年僧侶の方々にも手伝ってもらって、一緒に生活し、講義を聞く中で宗門の教えを学んでもらいます。

本堂下の集会スペース

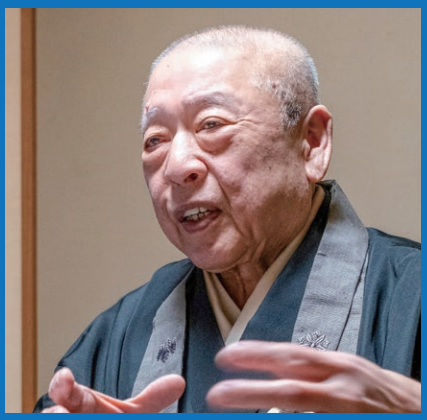
【用語解説】「宗教章」 ボーイスカウトでは、自己の成長の指標とするために、様々な課目を達成することで章を獲得したり級を進めたりすることができるようになっている。宗教章もその一つで、各宗教各宗派が設定した授与基準に則って、宗教者の指導のもとで信仰を深め取得する。ボーイスカウトの最高位である富士章を目指す際にも、宗教章が課目に含まれる。仏教章のほかに、神道章やキリスト教章などもあり、それぞれの記章が用意されている。

―小学生の頃からお寺に親しんでいることは、そういった研修を受ける際にも役に立ちそうですね。最後に改めて、僧侶や寺院の立場から見たボーイスカウト活動の意義についてお聞かせください。

ボーイスカウトでは「ちかい」や「おきて」を胸に規律や協調性といったことを様々な角度から、実際の体験を通して身に付けていってくれていると思います。色々な新しいことに挑戦して、当然失敗も沢山します。時には同年代同士で、時には世代を超えて助け合い、教え合いながら、人のためになることの喜びを感じてもらえるのが良いところです。ボーイスカウトの創始者のベーデン・パウエルも「幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある」という言葉を遺していますが、仏教でいう菩薩行にもつながってくる内容ではないかと思います。正しく生きる、というときの「正しい」というのがどういうことなのか、言葉では伝えるのが難しいことも多々あります。それを子どもたちが自分の手足を動かし、肌で感じ考え見つけていくことができるのは素晴らしいことではないでしょうか。

取材／広報委員　竹田龍永
広報委員　植本大貴

境内での餅つき



久保達夫　老師
東京都港区瑠璃光寺住職
幼少期よりボーイスカウト活動に参加し、シニア部門（中高生年代）やローバー部門（大学生・社会人年代）の指導者を経て現在もボーイスカウト港18団の育成会活動に携わる。長年、曹洞宗スカウト協議会の活動に参画し、現在理事長を務める。

ボーイスカウトでは信仰心の育成を教育の大きな柱の一つにしていて、カリキュラムでも信仰について学び、実践することが奨励されます。各宗教各宗派がこれに協力しており、曹洞宗では「曹洞宗スカウト協議会」を組織しています。理事長の東京都瑠璃光寺御住職・久保達夫老師に青少年を対象とした教化活動についてご教示いただきます。

―最初に久保老師がスカウト協議会に携わられるようになった経緯についてお教えください。

私は小学生の頃からボーイスカウト活動に参加していました。お寺が本部だったわけではなく、地域のボーイスカウト団に所属していました。指導者や育成会員としても活動を続けさせてもらい、スカウト協議会には近くの別の団で活動されていた曹洞宗寺院の方からお誘いいただきました。それからは本庁でのスカウト研修会、ジャンボリー（野営大会）での信仰奨励活動に携わってきました。

実は私は曹洞宗での仏教章取得第1号でした。まだ講習会なども行われていないときに本庁に話を聞きに行きました。思い返してみるとその時からご縁がありました。

―スカウト研修会というのはどういった取り組みなのでしょうか。

仏教章の取得を目指すスカウトを対象にした研修会です。1日目は曹洞宗檀信徒会館の研修道場に泊まり、2日目は大本山總持寺に移動して、2泊3日の日程で行います。曹洞宗の仏教章授与基準というのがあり、それに基づいた内容です。一仏両祖の伝記や、教え、年中行事、礼拝作法、仏壇荘厳法、家庭勤行や仏教讃歌についてなど、幅広く講義や実践を通じて学んでもらいます。

日本ジャンボリーでの野外法要

―非常に充実した内容ですね。参加者の様子はいかがですか。

皆さん仏教章を取得したいという意志をもって参加してくれていますので、一生懸命取り組んでくれます。

最後に感想を書いてもらう時間を作っています。もちろん慣れない作法や坐禅などが大変だったという話もありますが、それと同時に研修の中で学び感じ取ったことを今後の生活やボーイスカウト活動にどう活かしていきたいかということを、皆さん自分なりに考えながら書いてくれてとても感心します。

―自分で選んで研修に来ているということが真剣な姿勢につながっているそうですね。野営大会での信仰奨励活動についても教えてください。

4年に一度の「日本ジャンボリー」などの、各地のボーイスカウトが1か所に集まって行う野営大会で、信仰奨励のためのブースを設置しています。頒布物の配布や坐禅指導を行ったりします。もちろん野外で行うのですが、テントやすだれを使って坐禅用のスペースを作っています。そ

の場で組み立てて単にするための台座もあります。

野外の開放感や、様々なプログラムに挑戦する大会中の雰囲気もあってか、興味を持って訪れてくれるスカウトが沢山います。同年代が集まっていて、仲間同士連れ立って来てくれるので入り込みやすいということもあると思います。

―普段はお寺や仏教になじみのない青少年と交流する良い機会にもなりそうですね。

僧侶としての活動はどうしても成人、特に高齢の方を相手とすることが多いと思います。あるいは幼稚園・保育園があれば幼い子どもたちと共に過ごすこともあるでしょう。ただ中高生年代の青少年というと、中々関わる機会がないという方も多いのではないでしょうか。そういった観点からスカウト研修会では教化指導員の方々にも講師をお願いしています。ボーイスカウトは子どもたち・僧侶にとっても貴重な場を提供してくれていると思います。

取材／広報委員　竹田龍永
広報副委員長　信行一弘

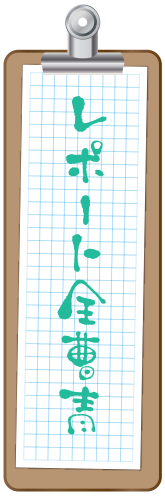
スカウト研修会　食事前に五観の偈を唱和

子どもたちと作る地域とお寺の未来

本特集では、柴田老師、久保老師へのインタビューを通じて、ボーイスカウト活動を通じた子どもたちとの交流についてご紹介しました。お二方のお話を伺っていると、ボーイスカウトが仲立ちとなることで、寺院と檀信徒という枠組みに留まらないより開かれた地域交流や、年代に即した深みを持った布教が可能となっているように感じました。ボーイスカウトに携わる方々の、子どもたちの健やかな成長を願う気持ちが大きな力になっていると思います。

青年僧侶として社会との接点を求めるとき、ついつい「自分に何ができるのか」というところばかりに考えが向いてしまい行き詰ってしまうことや、檀務との兼ね合いもある中で新しい試みを始めることに躊躇することもあるのではないかと思います。ボーイスカウトに限らず、地域や子どもたちのために何かをしたいと考え、実践している方々と手を携えることで、寺院活性化の可能性を大きく広げることができるかもしれません。

文／広報委員　竹田龍永



「世界の寺院から～ブラジル編～」開催報告

昨年12月11日に「世界の寺院から～ブラジル編～」というオンライン企画を開催しました。「世界の寺院と繋がる」をテーマに、今回は南米で活躍する3人の若き僧侶をお招きしました。

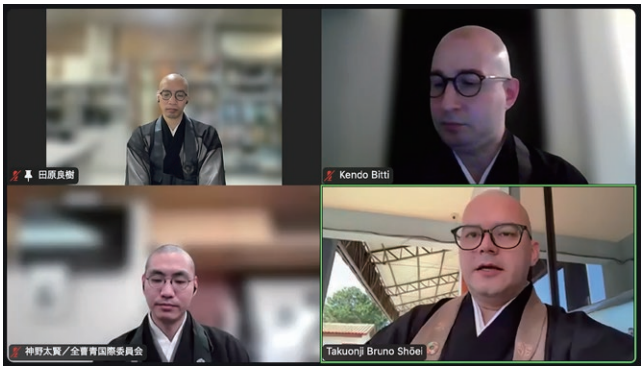
まずはブラジル・佛心寺から田原良樹師。ブラジルへ渡り10年になる師には、南米布教の歴史を中心に南米寺院について伺いました。

パラグアイ・拓恩寺からはブルーノ正栄師。日系人も多い地域のため日本文化や慣習も取り入れながら活動されている様子をご紹介いただきました。

最後はブラジル・禅光寺のビッチ研道師。地域行政と協力しての観光業や参禅体験、就労支援の陶芸教室、美術館の設置など、地域に根差しながら幅広い活動を行っていることをお話しいただきました。

オンラインでの企画でしたが海外寺院の様子を直接伺うことができ、海外にも私たちと同様に活躍する青年僧侶がいること、そして共にお釈迦さまを仰ぐサンガがあることを感じることができた意義深い交流企画となりました。

文／国際委員長　神野太賢



精進料理教室「味来食堂～僧食を学ぼう～」開催報告

令和6年12月6日・愛知学院大学、令和7年1月19日・東京都内レンタルキッチンスペース Patia（パティア）曙橋店、令和7年4月19日・駒沢女子大学で開催いたしました。

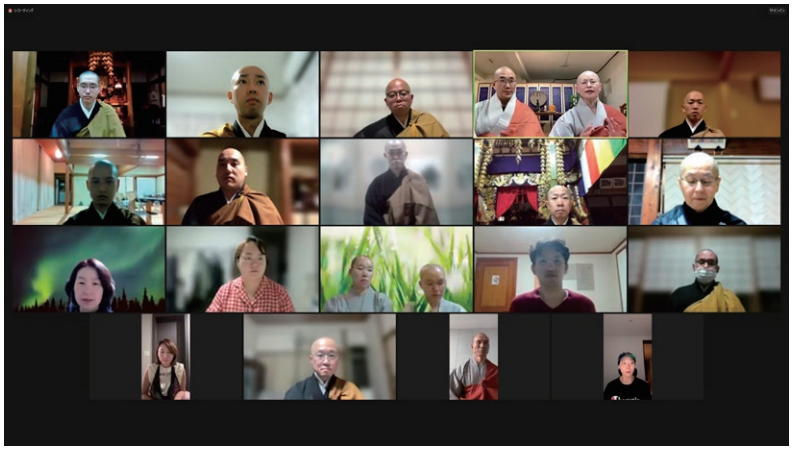
精進料理教室「味来食堂～僧食を学ぼう～」は、全曹青第20期に創立40周年記念事業の一つとして始まりました。これまで多くの講師をお招きし、主に一般の方を対象として全国各地で開催してまいりました。近年では学生に精進料理を学ばせたいというお話を頂戴し、愛知学院大学の健康科学部健康栄養学科1年生を対象に2年連続で開催させていただきました。

どの精進料理教室に参加される方も精進料理に初めて触れる方が多く、真剣な眼差しで講師の説明を聞いておられました。今後も継続的な開催を行ない、精進料理を通して禅の教えに触れていただくと同時に、その教えを未来に伝えていくことの大切さを感じました。

文／広報委員長　宮本貴心

「Korea-Japan Zen Club」開催報告

昨年10月より月に1回程度、韓国の曹渓宗国際伝法団とのオンライン企画「Korea-Japan Zen Club」を継続して行ってまいりました。この企画では日本出身の曹渓宗僧侶の方がおられ通訳を担っていただいていますが、それ以上に「仏教」がお互いの共通言語となり交流を重ねてきました。



坐禅の際には細かな作法こそ違えども、海を越えて時間を共有し一緒に坐ることができます。また毎回簡単なテーマを決め各国の仏教文化や寺院紹介などを行うことで、お互いについての理解も深まってきました。特に1月の開催では寺院での年末年始の過ごし方を紹介し合うなど、普段あまり見聞きしない様子も知ることができました。さらに各国とも一般の方も参加しており、中には日本の方が韓国語で質問されるなど思わぬ交流も生まれました。

これまであまり無かった海外の宗派、僧侶との継続的な交流企画ということで新たな良縁を結ぶことができました。今後もこの良縁を活かし交流を続けていきたいと思います。

文／国際委員長　神野太賢

「寺院のための情報発信支援講座」開催報告

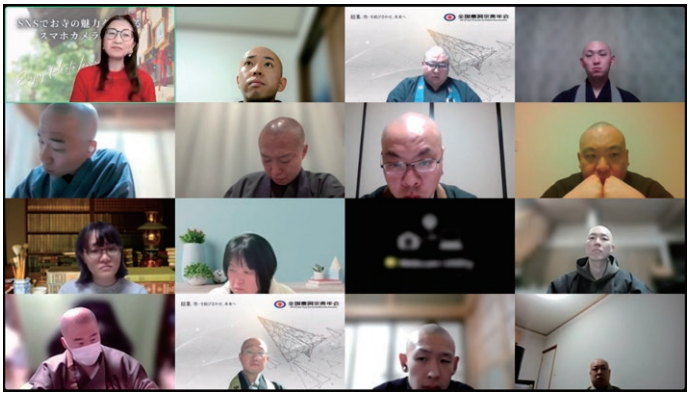
令和7年1月22日・2月26日、「寺院のための情報発信支援講座～SNSでお寺の魅力を伝えるスマホカメラ講座～」をオンラインで開催いたしました。講師にはフォトグラファーである栗本恵里氏をお迎えし、基礎編と応用編の2回に分けて行いました。

基礎編では初心者・中級者に向け、カメラでの撮影方法やスマホアプリによる写真編集、SNSで情報発信をするために必要なことについて教えていただきました。応用編では中級者に向け、参加者が事前に撮影した写真への講評や、投稿がより人の目に止まりやすくなるための投稿技術の助言をいただきました。

写真撮影やSNSへ投稿を行う際に、限られた情報の中で自分が何を一番伝えたいのかということを重視し、作成をしていくことの大切さを感じました。そして、様々な媒体がある現在、自分のSNS投稿の目的に合致した媒体が何なのかということをしっかりと見つめ直すお話をいただきました。

文／広報委員長　宮本貴心

栗本恵里氏



災害復興支援部 ニュースレター

東日本大震災慰霊・復興祈願法要

令和7年3月10日、福島県伊達市・成林寺様の納経塔前で、全曹青、全日本仏教青年会、世界仏教徒青年連盟の共催で東日本大震災慰霊・復興祈願法要を厳修いたしました。今年も全国で起きた自然災害に対しても想いを向けるとともに、復興への祈りも込められました。

法要前に田ノ口会長は「慰霊とは、文字や情報では伝えきれない亡くなった方々の人間性に思いを寄せることではないか」と挨拶しました。法要では、全国から復興祈願の想いを込めて送り届けられた1000枚を超える写経用紙を奉納しました。現地に参集した僧侶だけでなくオンライン参加者が随喜する中、14時40分より行事を開始し、14時46分に合わせ黙祷を捧げました。

全曹青第18期会長でもある成林寺副住職・久間泰弘老師より「東北を含めた各被災地では、直接的、間接的、後方支援と形は様々あります。自己他己、喜怒哀楽の命とともに今後も歩みを進めていただければと願っております」とご挨拶いただきました。『全曹青公式 YouTube チャンネル』では、当法要のライブ配信動画をご覧いただけます。

文／広報委員　植本大貴

福島成林寺

令和7年3月11日、全曹青副会長・山崎秀典師を導師に正当慰霊法要を厳修いたしました。法要後にはご随喜された全曹青第21期会長・安達瑞樹老師より、震災当時の想いや今後の課題についてお話いただきました。

東日本大震災から14年が経ち震災の記憶が薄い、またはない世代や、当時生まれていない子どもたちも周りに増えてきました。人命にかかわる自然災害は毎年起きています。過去に起きた災害を知ることが将来起こりうる巨大地震の備えとなると思います。犠牲になられました方々に改めて追悼の意を表しますと共に、被災された皆様にお見舞いを申し上げ、心より復興をお祈りいたします。

文／広報委員　植本大貴

宮城自照院　活動の灯

令和7年3月11日、宮城県角田市の自照院様にある「活動の灯」の前において、東日本大震災慰霊法要を勤めました。「活動の灯」とは、東日本大震災発災時に全曹青の活動拠点となった寺院に、慰霊の想いと復興支援の継続を誓いご安置いただいている石碑です。

田ノ口会長が導師を勤め、梅花講の皆様をはじめとする多くの方にご参列いただきました。発災時刻には防災サイレンに合わせ皆で黙祷を捧げ、読経と詠讃歌の奉詠後に焼香を行ないました。

文／広報委員長　宮本貴心

岩手龍泉寺　活動の灯

3月11日、岩手県山田町・龍泉寺様の「活動の灯」前で法要を行いました。穏やかな春風が吹く中、髙柳龍哉副会長が導師を務め、地元の岩手曹青と秋田曹青の会員が随喜しました。

引き続き法堂へ移動し、慰霊法要が厳修されました。龍泉寺御住職である石ヶ森桂山老師が導師をお務めになり、法要後には発災時刻に合わせて黙祷が捧げられました。青年僧侶に加えて龍泉寺梅花講の皆様、檀信徒の皆様も参加され、被災地に祈りを捧げられました。

石ヶ森老師は法要後、「家族のように被災地、被災者の方々と向き合っていく」と語られました。その言葉に、どれほど時が経とうとも、どれほど復興が進もうとも、常に向き合い続ける覚悟を感じ、自身も心身を新たに復興への道を歩まねばならないと確信いたしました。

文／広報委員　佐藤孝成

全日仏青 NEWS

JYBA
ALL JAPAN YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION

阪神・淡路大震災慰霊法要 随喜報告

令和7年1月16日夕方から17日夕方にかけて阪神・淡路大震災慰霊法要が執り行われました。神戸青年仏教徒会より全日仏青を通じてご案内いただき、全曹青からも田ノ口会長や村山顧問らが随喜いたしました。

16日夕方には、神戸市中央区の神戸青年仏教徒会の事務所におきまして、逮夜法要が行われました。

翌17日早朝には震災当時最も大きな被害を受けた神戸市長田区にあるカトリックたかとり教会とあわせの地蔵の2か所で慰霊法要が行われました。

発災時刻の5時46分に黙祷の後、法螺貝の音を合図に法要が始まり、参列の方々は読経の中、焼香をされ犠牲者の方々のご冥福をお祈りいたしました。法要後、地元の方々が朝早くから作られた豚汁や善哉が振舞われ、早朝の寒さの中で体を温めました。

その後、夕方に同区内にある御蔵北公園に移動しました。公園内にある鎮魂の碑は大本山永平寺貫首を務められていた宮崎奕保禅師の揮毫による「鎮魂」の2文字が刻まれています。兵庫県第二宗務所青年会の皆様と共に公園内にある碑前に設けられた祭壇に祈りを捧げ、お勤めし、供養の焼香をいたしました。

終戦から80年、昭和１００年、今年は大阪・関西万博もあり、２０２５年は様々な節目の年になります。時代が移り行く中で、今年で震災から30年が経ちました。神戸の街は復興しましたが、人の心と復興は別で今もなおこの日を思い出すのが辛い方々がいます。私は震災の年に生まれたので震災を経験しておりませんが、神戸に住む半数以上が「震災を知らない世代」になったと聞きます。これから、段々と震災の記憶が薄くなっていくと、いざ大地震が起きた時にその教訓が活かされない恐れがあります。今回の法要を通して震災の記憶を伝えていき、災害を受けた人々の気持ちや教訓を語り継ぐことは大切なことだと改めて感じました。

文／広報委員　植本大貴

Real Voice

広報委員会からのごあいさつ

委員長　宮本貴心
宮城県曹洞宗青年会

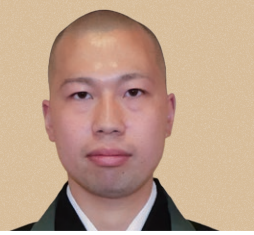
今期の広報誌『SOUSEI』では、特集記事や50周年記念事業など様々な記事を掲載してまいりました。この広報委員会の活動が、青年会活動の一助になれば幸いです。ご助力いただいた皆様のおかげで、2年間何とか務めあげることができました。誠にありがとうございました。

副委員長　信行一宏
福岡県曹洞宗青年会

今期で2期目の全曹青に出向させていただきました。微力ではありますが、50周年記念事業に参画し、全曹青の様々な活動を発信してきました。それらの広報活動を通して、多くの学びとご縁をいただくことができたと思います。第25期も残すところあと僅かとなっておりますが、最後までしっかりと責務を全うしてまいります。

委員　佐藤孝成
曹洞宗山形県第三宗務所青年会

まずは2年間の全曹青の活動を通して、お世話になりましたすべての皆様に御礼申し上げます。すべてが思うような活動とはいかず、迷惑をかけっきりとなってしまいましたが、この経験を地元でも活かせるよう精進してまいります。ありがとうございました。



委員　南澤亨全
曹洞宗長野県第一青年会

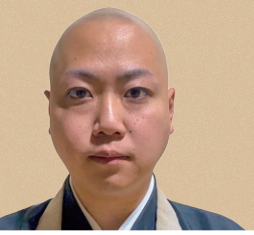
取材等を通して、僧侶は常に人から見られている立場であると改めて感じました。名誉や肩書き、利益にとらわれることなく、日々の生活の中で自らを律しながら僧侶として人間性を磨いていき、本当の意味での危機感を持って、皆様のお力に少しでもなれるよう努力精進してまいります。

委員　竹田龍永
曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

広報について知識も経験もない状態での出向となりましたが、創立50周年事業を中心に広報活動に携わらせていただく中、ご縁をつないでいくことの意義を強く実感することができました。この初心を忘れず、務めを果たしてまいりたいと思います。

委員　植本大貴
京都曹洞宗青年会

全曹青を通して全国各地を取材する中で多くのご縁に恵まれました。檀信徒との縁、社会との縁など、多くの方々と関わり、考えを聞き、伝えあい、気付きあうことが仏教の広報だと感じました。全曹青での経験を京都の青年会や自坊での活動で活かせられるように精進してまいります。2年間ありがとうございました。



委員　補陀孝亮
和歌山県曹洞宗青年会

全曹青創立50周年という節目の期に出向させていただき、広報活動を通して様々な方とのご縁があり、今まで触れることのなかった多くのことを学ばせていただきました。全曹青の活動で培った経験を今後の布教活動に活かせられるよう、これからも日々精進してまいります。

委員　多飯皓成
岡山県曹洞宗青年会

広報活動の基礎から応用まで幅広くご指導いただき大変勉強になりました。一方で、委員会活動に十分貢献できなかったことを申し訳なく思っております。にもかかわらず、委員長・副委員長をはじめ、広報委員会の皆様には親切にご対応いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

◆山形県1
24　養千寺 様
158 清龍寺 様
224 長泉寺 様

◆山形県2
322 洞松寺 様
341 全龍院 様
393 館山寺 様
417 繁応院 様
418 竜雲院 様

◆山形県3
468 宗傳寺 様
641 宝泉寺 様
671 海禅寺 様
734 東光寺 様

◆秋田県
76　藏堅寺 様
279 宝昌寺 様
302 天昌寺 様
321 鏡得寺 様

◆北海道1
78　正林寺 様
87　竜松寺 様

◆北海道2
102 興禅寺 様
117 中央院 様
187 放光寺 様
248 總泉寺 様
279 西乗寺 様
418 萬台寺 様

ボランティア基金感謝録

2025年1月1日～2025年3月31日取扱い分

◆大阪府
大阪有道会 様

◆島根県1
石見曹洞宗青年会　様

◆宮城県
141 自照院 様

◆岩手県
245 常楽寺 様

◆北海道3
曹洞宗北海道第3宗務所第5教区青年会　様
曹洞宗北海道第2宗務所第3教区掬水会　様

ラディカヨガ　様

全国曹洞宗青年会創立50周年　協賛金芳名録

2025年1月1日～2025年3月31日取扱い分

島根県　長谷川鉄工所　様

創立50周年記念事業　祝賀添菜芳名録

2025年2月26日 災害復興支援活動近畿管区研修会

京都府　興聖寺　吉川圓良　様
京都府　講田寺　植本幸二　様
兵庫県　長楽寺　安達瑞樹　様
京都曹洞宗青年会　様
曹洞宗兵庫県第一宗務所曹洞興禅会　様

頂戴いたしました浄財は、
全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業の
円成のために活用させていただきました。
衷心より御礼申し上げます。

お寺専門 結婚相談所

あいおい結びの会
070-3833-0800
曹洞宗報 1月号掲載
東京都中央区銀座 1-12-4 N&E BLD.7階
▼ライン　▼HP

賛助費浄納芳名簿

2025年1月1日～2025年3月31日取扱い分

◆東京都
52　海雲寺 様
259　永林寺 様
311　妙光院 様
333　雲慶院 様

◆神奈川県1
324　玉寶寺 様

◆神奈川県2
10　随流院 様
16　正観寺 様
21　東照寺 様
60　福泉寺 様
83　正翁寺 様

◆埼玉県1
37　妙嚴寺 様
92　淨山寺 様
416　昌福寺 様

◆埼玉県2
569　長青寺 様

◆群馬県
194　善宗寺 様
209　妙英寺 様

◆栃木県
51　豊栖院 様

◆茨城県
2　天徳寺 様
13　龍泉院 様
197　長龍寺 様

◆千葉県
2　宗胤寺 様
22　廣壽寺 様
24　仁守寺 様
29　慶林寺 様

◆山梨県
162　法久寺 様
213　方外院 様

◆静岡県1
7　元長寺 様
26　宝珠院 様
177　興隆寺 様
388　林叟院 様
464　正泉寺 様

◆静岡県2
291　明徳寺 様

◆静岡県3
1314　西光寺 様

◆静岡県4
1065　高林寺 様

◆愛知県1
55　長全寺 様
127　龍潭寺 様
135　光明寺 様
229　寶泉寺 様
261　薬師寺 様
313　長松寺 様
341　一心寺 様
375　春江院 様
605　天徳寺 様
625　宝積寺 様
635　永澤寺 様
652　龍光院 様
677　祐源寺 様
824　東昌寺 様
1229　玉林寺 様
1256　大泉寺 様

◆愛知県2
684　花井寺 様
858　大圓寺 様

◆愛知県3
431　報恩寺 様
396　龍雲院 様
557　楞嚴寺 様

◆岐阜県
15　東林寺 様
153　宗久寺 様
245　良守寺 様

◆三重県1
7　海蔵寺 様
37　四天王寺様
144　福源寺 様
269　大蓮寺 様
273　禅龍寺 様
276　地蔵院 様
291　林昌寺 様
305　傳法院 様

◆京都府
46　榮春寺 様
91　福泉寺 様
236　善光寺 様
389　萬福寺 様

◆大阪府
26　天徳寺 様
56　南昌寺 様
69　永興寺 様

◆奈良県
81　諦崇寺 様

◆和歌山県
10　窓譽寺 様

◆兵庫県1
14　禅昌寺 様
287　向榮寺 様
337　友松寺 様
341　常厳寺 様
343　大雄寺 様

◆岡山県
3　長川寺 様
4　威德寺 様

◆広島県
8　聖光寺 様
46　双照院 様
58　宗光寺 様
86　西金寺 様
93　賢忠寺 様
133　少林寺 様

◆山口県
4　寶蔵寺 様
25　弘済寺 様
190　亨德寺 様

◆鳥取県
170　大安寺 様

◆島根県2
31　常榮寺 様
36　舜叟寺 様
45　禪覺寺 様
63　龍覚寺 様
70　完全寺 様
157　慶用寺 様
187　養善寺 様

◆高知県・香川県
3　善教寺 様

◆愛媛県
146　興雲寺 様

◆福岡県
5　妙德寺 様
25　南林寺 様

◆長崎県1
33　妙本寺 様
78　宝泉寺 様

◆佐賀県
114　廣嚴寺 様

◆熊本県1
11　宗禪寺 様

◆熊本県2
76　高雲寺 様
78　地藏院 様
122　國照寺 様

◆長野県1
39　盛傳寺 様
243　廣德寺 様
322　守芳院 様

◆長野県2
400　長久寺 様
566　広明寺 様

◆福井県
108　玉祥寺 様

◆石川県
75　大覚寺 様

◆富山県
25　常泉寺 様
110　円通寺 様

◆新潟県1
393　曹源寺 様
394　常安寺 様
496　長樂寺 様

◆新潟県4
23　観音寺 様

◆福島県
41　石雲寺 様
49　大泉寺 様
101　成林寺 様
110　龍德寺 様
121　長泉寺 様
226　常隆寺 様
274　龍門寺 様
295　高萩院 様

◆宮城県
34　江巖寺 様
43　玉川寺 様
141　自照院 様
348　満照寺 様
414　虎渓寺 様

◆岩手県
13　長善寺 様
67　永昌寺 様
133　大林寺 様
153　珠光寺 様
185　長泉寺 様
198　東安寺 様
245　常楽寺 様
290　長泉寺 様

◆青森県
98　東光寺 様
100　澄月寺 様

インターネット受付分

◆静岡県1　459　洞雲寺　様
◆島根県2　199　妙樂寺　様
◆秋田県　265　倫勝寺　様

全曹青創立50周年記念誌『LOG』発刊

Link Of Growth

広報誌『SOUSEI』今号と共に、全曹青創立50周年を記念してまとめました記念誌『LOG』を皆様のお手元にお届けいたします。『大衆教化の接点を求めて』をスローガンに昭和50年秋に発会した全曹青の50年間の歩み、そして諸先輩方の想いを記録するように努めております。ぜひご一読いただけますよう、伏してお願い申し上げます。

そして、記念誌『LOG』の発行にあたってご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。両大本山貫首猊下、宗務総長老師、歴代会長老師、歴代会員諸老師の皆様におかれてはご寄稿及び取材の機会を賜りましたこと、謹んで御礼申し上げます。また、記念誌の発刊にあたり様々なご縁をいただきご協力をいただきました皆々様に、心より御礼を申し上げます。

途切れることなく50年という長い年月を歩むというのは、並大抵のことではない。記念誌『LOG』の編集に際して全曹青の諸先輩方にお話を伺い、過去の資料を調べていく中でそのような考えを抱きました。記念誌『LOG』が、読んでくださる皆様に全曹青の諸先輩方の熱意と努力を感じさせ、また編集に携わった現役会員の諸先輩方への感謝の念を共有するきっかけとなるよう願っております。

会長　田ノ口太悟

令和7年3月28日に発生したミャンマー中部を震源とする大規模な地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早く日常生活の復旧が実現されますことを、心よりご祈念申し上げます。

表紙の話

創立50周年を迎えた全曹青第25期も、いよいよ来期へ向かう時となりました。そんな今期最終号では、創立50周年事業のまとめとともに、自然をテーマに次世代への継承を考える特集を掲載しています。

青年僧侶の想いがさらに未来へと繋がる事を願い、バトンタッチの表紙とさせていただきました。

撮影地／広島県　因島　撮影/50周年記念事業実行副委員長　菅悠生

SOUSEI
発行所／全国曹洞宗青年会　〒105-8544　東京都港区芝2-5-2　曹洞宗宗務庁内　発行責任者／田ノ口太悟　編集責任者／宮本貴心　編集委員／信行一宏・佐藤孝成・南澤亨全・補陀孝亮・植本大貴・竹田龍永・多飯皓成
本誌編集部並びに発行部数に関するお問い合わせ先／〒987-1304　宮城県大崎市千石字大欅91　石雲寺内　TEL・FAX　0229-55-3447　制作・デザイン／リブロアートワーク　印刷所／株式会社グラフィック　定価100円
平成11年6月8日第三種郵便物認可（年4回2・5・8・11月の10日発行）そうせい第209号 令和7年5月10日発行